



黄保仿親子から感謝の手紙

董事長が提唱する合璧の方針「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」これは2009年からはじまったのでしょうか。いえ、実はもっとずっと前からありました。それを証明するのが2002年に書かれた黄保仿親子から感謝の手紙です。それではこの手紙、みなさんと一緒に見てみましょう。

董事長 新年おめでとうございます。

わたしは上海合璧で保安の仕事をしています。旧年（2002年）が過ぎて新しい年となり、合璧もわたしは従業員もそれぞれ一つ年をとりました。昨年は「感謝報恩、回饋社会（感謝に報いて社会に報いる）」を実践して善行を続ける董事長に深く感動しました。なぜなら董事長と副總經理によってわたしの父と兄は命を救われたからです。これについて本当に感謝しています。今回の正月休みで実家に帰省したとき（1月19日～26日）、彼らはまだ全快というわけではありませんでしたが、以前と比べてかなりよくなっていました。とてもうれしかったです。もし董事長の助けがなかったら、彼らはどうなっていたか、考えただけで恐ろしくなります。わたしはよく人に董事長のことを話します。董事長は本当によい人で、会社の経営に当たっても最終目的は「感謝報恩、回饋社会」で、利益の追求は企業にとっての一過程にすぎないと考えています。このような企業のトップをわたしは知りません。わたしも父も共産党員ですが、今回の交通事故で党は何もしてくれませんでした。これには内心複雑な気持ちでした。新しい年（2003年）、合璧は董事長の経営と従業員の努力によって輝かしい発展を遂げると信じています。

きょうは正月30日。我が家を代表して董事長にあいさつを述べたいと思います。

「壽比南山，福如東海，年年有今日，歲歲有今朝（寿は南山の松のように老いず、福は東海の水のように絶えない。毎年今日という日、今朝という朝がありますように）」最後に合璧の同僚にも新年のお慶びを申し上げます。



感謝の気持ちを伝える黄さん

上海合璧 黄保仿

董事長 殿

董事長はわたしの命の恩人です。わたしは黄家卓、上海合璧で警備を務める黄保仿の父です。わたしは9月25日、杭州の路上で息子（黄保仿の兄）とともに交通事故に遭い、地元の人によって杭州平陽医院に運ばれました。そのときお金がなくて、病院からは手術ができないといわれました。それを知った上海合璧の副總經理はすぐに黄保仿夫婦にお金を持たせて病院で向かわせました。このときの3万5千元がなかったら、わたしは今生きているかわかりません。家族4代、17人みんなが感謝しています。11月4日、わたしは病院で董事長が合璧に送ったFAXの内容を見たとき、感動で目頭が熱くなりました。この気持ちは言葉では表せません。わたしは今年62歳になります。18歳のときから村の幹部をして、いろいろなところで人と人が争うのを見てきました。しかし、董事長からは争いのかけらも感じませんでした。董事長から感じたのは本当の愛だけです。そしてこの愛はわたしに生きる勇気を与えてくれました。退院したら、必ず上海合璧に行って副總經理にお礼をいいたいと思います。従業員に董事長の経営哲学や人生意念を伝えたいと思います。また、息子黄保仿の夫婦と孫には、会社のために一層頑張ってもらいたいので、わたしは台湾へ行くことはできません。ですから、これが感謝を伝えるためにできることすべてです。董事長、あなたのように愛に満ち溢れた人は必ず100歳まで長生きするでしょう。そして、会社も日々発展していくことでしょう。

最後に董事長と副總經理の健康をお祈りいたします。

黄家卓 敬上

関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）

経営を取り巻く環境が大きく変化し、今、新たな問題が生まれています。今年広東地区で連続して起きた従業員の飛び降り自殺やストライキの問題は社会に対して工場管理の難しさを浮き彫りにするとともに、人間関係において気配りと思いやりで接することの重要性が見直されました。そしてメディアもこぞって「企業はいかにして従業員に接するべきか」について報道しました。しかし、こうした問題は日頃の考え方と行動で解決できるものなのです。



市内を巡るツアーコースを企画しました。さらに天平山へのハイキングも企画しました。これらの企画に何度が参加した成型課の同僚たちは本当に楽しそうでした。

時代は変わり、社会も変わりました。そして若い世代の人たちはわたしたちのころとまったく違います。とくに80年代後半に生まれた従業員は、自分の権利と義務をはっきり主張します。しかし、彼らが将来を背負って立つことに変わりはありません。ですから、従業員の管理方法もこれまでも同じではなく、環境に合わせた変化が必要だと思います。それをするときに、彼らに感動を与えることができるのです。多くの成功した企業が対人関係を重視していますが、わたしもずっとそう思ってきました。そして、それは少しばかりの行動が大きな結果をもたらすものだと思っています。

上海合璧電子电器有限公司

中國201-805上海市嘉定區安亭鎮安鳴路318號
TEL: +86-21-5950-5466

グループ製造総工場長 陳煥明

日本見学で感じたこと

今回、わたしは5日間の日程で日本を見学しました。その中でも董事長の厳しい態度、事前準備の大切さ、最後まで追って仕事を完了させること、繊細な日本文化などを肌で感じる事ができました。また、見学の間、董事長は常にわたしたちに注意を与え、指導し、わたしたちが有意義な時間を経験できるようにしてくれました。このような機会を与えてくれた董事長と会社心から感謝したいと思います。

日本についてすぐ、わたしは日本の空気がとてもきれいなことに驚きました。ガイドの話ではシャツを毎日替える必要もないとのことでした。このときわたしは何故か中国でここ数年発生する砂嵐のことを想像しました。黄砂が吹き荒れるため白いシャツは汚れ、口の中は砂だらけ。わたしたちは日本のマナーを学びに来たのですが、それよりも先に環境保護の概念を学ぶことになりました。

三業の工場ではオートメーション設備を見学しましたが、ここで聞いた工場長の話の中からいろいろなることを学びました。あるものはすぐに実践でき、また、あるものは今後徐々に取り入れていくべきものでした。そんな中でおもしろかったのがペットボトルの再利用です。ここではペットボトルが多くの設備の中に使われていました。わたしは日本人のリサイクル精神に感じました。

街中で感じたことについても紹介します。まず、日本も中国と同じようにオフィス街と住宅街が分かれているということ。面積が小さい関係か、少し窮屈な感じはしますが、 doch どちらかといえば、衛生問題はまったく見当りません。日本はゴミ箱がないとき、ゴミを家まで持って帰って捨てるそうです。それから、日本人はとも秩序を重視します。列を作って並ぶことは当たり前で、しかもみんなメートルほどの距離を保っています。エスカレーターでは左側に立って急ぐ人が右側を通れるようにしているし、公共の場所では大声を出しません。ピュッフェではテーブルにこぼしたものがあれば、それをちゃんと紙で拭き取り、使ったあとの食器類はそれぞれが指定の回収場所に戻します。交通規則もしっかりと守ります。人も車も赤信号に突っ込むことはありません。車は路地との交差点を通るとき、特に減速しません。交差点を無視して飛び出す歩行者がいないので、減速する必要はないのです。車がゆっくり走るのは信号が赤から青になるまでのとき。もし、まだ道を渡りきっていない人がいたら、その人を通してから車が進むからです。このように日本では常に歩行者優先の考え方が貫かれていました。

中国も日本も礼儀を重んじる国です。しかしどちらの方がそれを実践しているかといえば日本だと思います。日本のサービス水準は世界でも屈指のものです。ショッピングセンターやホテルの従業員はもちろん、清掃員にいたるまで厳しい規範にしたがって仕事をしています。だから、決まった時間に清掃が行われ、いつもきれいな環境を保っているのです。このようにきちんとした仕事にはお客に対する尊重の気持ちが表れると思います。また、問題がすぐに解決できないとき、日本では解決に向けて同僚が力を合わせます。そして、お客様の満足度を勝ち取ります。

わたしはどの会社もいろいろな制度があります。しかし、徹底してそれが遵守されているわけではなく、したがって仕事上で生かされていないのです。日本はサービスもマナーも素晴らしいです。これらは当然学ぶべきものです。しかし、その場合でも、ただ形式的に学ばなくてはならず、そこら自分自身を改善していくべきだと思います。学んだことをしっかりと身につけて、自分自身の一部となるようにしていかなければならないと思います。

それにしても日本という民族にはやはり感心するしかありません。敗戦後の何もない状態から70年代、80年代には持ち前の勤労精神で国を飛躍させたのですから。それから、日本は何をするにも細かなところまで怠らない民族です。食事についてもそれは同じです。日本料理は、量は多くありませんが、見た目にとってもきれいです。それに栄養バランスも考えて作られています。日本人は本当に細かきところまで手を抜かれません。わたしたちのようなない加減さで飲んでも大丈夫です。これはこの五日間、いろいろなところで感じました。わたしたちの乗った車の運転手は、わたしたちを目的地まで届けたあとにも窓ガラスを拭いたりゴミを拾ったりします。旅館の従業員たちも、わたしたちが車に乗るとき、わたしたちの荷物をきちんと車に積んでくれます。そして降りるときは、それをひとつずつ笑顔で渡してくれます。日本人は大声で言い合いをすることもありません。何だかとても教養にあふれているように見えます。

ここまでいろいろ感想を書きましたが、最後に董事長に感謝したいです。今回学んだ数々のことを、わたしは仕事や生活の中で活かしたいと思います。今回見学に参加した24人から「いい加減」をなくしていきます。自分の仕事を頑張って、ほかの同僚にいい影響を与え、みんなでもっと次の40年に向かって進んでいきたいと思っています。

上海合璧 生産技術課主任 金昌武

捕虜の四百元

合璧に入社して一年。「今の気持ちは？」と聞かれたら、「満足」と答えます。しかし、入社したばかりのころはそうでもありませんでした。たくさんある会社の規則にも慣れませんでした。一日十時間以上立ちっぱなしの作業で足は腫れ上がり、朝礼と朝の体操については何故こんなことをしなければならないのか理解できませんでした（学校みたいだと思いました）。そこで仕事を辞めたいと思うようになりました。しかし、そのとき思ったのが職業紹介業者に払った仲介料の四百元です。この四百元のためにわたしはとらええず辞めずに仕事を続けることにしました。そして少しずつ合璧の環境に馴染んでいきました。

一ヶ月ぐらい経ったあと、わたしは組長から実習班長に任命されました。これによってわたしの気持ちに変化が生じました。挑戦してみようという気持ちが湧いてきたのです。そして、生産ラインについて勉強をはじめました。組長をはじめ、課長や林経理もわたしにトレーニングの機会を与えてくれました。こうやって少しずつ仕事を理解し、ここで頑張ってみようと思うようになりました。朝礼や体操、毎朝の5sにも慣れました。これらは今ではすっかり生活の一部分になっています。また、上司がいつも教えてくれる会社の文化や理念も受け継いでいきました。

わたしは、合璧には人を変える力があると思います。これによって先輩社員たちもわたしと同じように変わっていったのです。これは合璧の文化です。董事長は講演の中でいつも向上心を持つようにいいます。これはきっと多くの人たちの気持ちを奮い立たせることでしょう。また、会社の理念の「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」はほかの会社には決まてくれないことだと思います。そして、この理念があるからこそ合璧は金融危機の中でも安定した成長を続けられるのだと思います。今思うと、仲介料の四百元は安かったと思います。安定した収入が得られるようになったばかりか、よそでは学べない多くのことを学ぶことができたわけですから。

上海合璧 製造課班長 蔣中兵

合璧は我等温もりの家；我は合璧を愛し、合璧は我を愛する；關心關懷關照 同心同歩同調！

